

日本人の庶民史観を非凡な着想力で切り拓き、

柳田國男・折口信夫につぐ民俗学者の精華を初めて集大成

生誕100年記念出版

五来重著作集

全12巻
別巻1

GORAI SHIGERU

法藏館

刊行のことば

五来重氏が亡くなって今年で十四年の歳月が流れた。当時、訃報記事が新聞で「仏教民俗学の先駆者」「修験道・霊場研究」の研究者などの見出しで報じられ、「仏教民俗学」に新機軸」という追悼文も出た。即ち、その研究業績はインドから中国を経てわが国に伝播し定着した、仏教の日本の変容とその庶民信仰化を民俗学の方法論を援用して明らかにしたことであった。日本の仏教はインド仏教とは似ても似つかぬ仏教であって、「日本仏教はインド仏教を誤解した仏教であった」と主張した。柳田國男、折口信夫を中心とするそれまでの民俗学研究は神道民俗が中心的研究課題であったことが、五来氏の提唱した仏教民俗学の研究がなお一層注目された。五来氏が巷間に知られるようになったのは名著『高野聖』（角川書店、一九六五年）

の上梓であって、「日本仏教の最低辺をささえた『ひじり』が、ほんとうの日本人のための仏教を今日までつたえて来たことをあきらかにした」という。晩年、仏教民俗学からさらに宗教民俗学の研究を提唱するが、近年は「日本民俗学」研究の百年の歩みのなかで、その研究業績、人間の経歴、および着想の鋭さにおいてまぎれもなく柳田國男、折口信夫をつぐ人物であった（山折哲雄氏）と、高く評価されている。本著作集は五来氏の代表的な論文・著書を研究テーマ別に分類して集大成したもので、編集担当・解説には斯界第一線の研究者を配した。柳田民俗学に畏敬の念を抱き、稗史の庶民史観の確立を目指した五来民俗学は、次代の日本仏教史研究、日本民俗学研究の可能性の指針を提示するとともに、ますます混迷する現代において、日本人とは何かを問いかけている。

二〇〇七年九月
法蔵館

◆全巻掲載予定論文内容◆

第一巻 日本仏教民俗学の構築

解説Ⅱ 鈴木昭英

ISBN978-4-8318-3407-2 / 八、九二五円

I 仏教民俗学の提唱

仏教と民俗学（『仏教民俗』一、高野山大学歴史研究会、一九五二年）／仏教儀礼の民俗性——とくに修正会と修二会について（同二、同、一九五三年）／仏教と民俗（『日本民俗学大系』八、平凡社、一九五九年）／日本仏教の民俗性（講座近代仏教』五、法蔵館、一九六一年）

II 仏教民俗学の方法論

日本仏教民俗学論攷学位主論文、一九六二年、初公刊）
仏教民俗学の回顧

仏教民俗学のあゆみ（『大法輪』四二—三、大法輪閣、一九七五年）／仏教民俗学の二十五年（『尋源』三一、大谷大学国史学会、一九七九年）／仏教民俗学の概念（講座日本民俗学』二、弘文堂、一九八〇年）

第二巻 聖の系譜と庶民仏教

解説Ⅱ 伊藤唯真

ISBN978-4-8318-3408-9 / 九、九七五円

I 高野聖

高野聖（増補）高野聖、角川書店、一九七五年）
善光寺まじり

II 善光寺まじり

善光寺まじり（『善光寺まじり』、平凡社、一九八八年）

第三巻 日本人の死生観と葬墓史

解説Ⅱ 赤田光男

ISBN978-4-8318-3409-6 / 八、九二五円

I 日本人の死生観 他界観

日本人の死生観（季刊 創造の世界』九、小学館、一九七三）

第五巻 修験道の修行と宗教民俗

解説Ⅱ 宮家 準

ISBN978-4-8318-3411-9 / 八、九二五円

序 修験道における宗教的実践

（『大谷学報』五一—三、大谷学会、一九七一年）

I 修行

禪定／苦行／捨身／行道／窟籠り

II 遍路と修験

遍路と行道／四国霊場と窟籠り

III 木食・念仏と修験

木食と修験／念仏と修験

IV 修行のあかし 一 験競へ

飛鉢の験競へ／鑽火の験競へと柱松／活殺自在と金縛り／山伏の託宣と験

V 聖火・聖と宗教民俗

ひじりの意味／神道系の聖火／仏教系の聖火／民俗系の聖火（『Vまでアマガミ』阿含宗総本山出版局、一九七九／八六年）
修験道の現代的意義
『宗教と現代』鎌倉新書、一九八七年）

第六巻 修験道霊山の歴史と信仰

解説Ⅱ 鈴木昭英

ISBN978-4-8318-3412-6 / 八、九二五円

I 近畿霊山の山岳信仰と修験道

大和と三輪山の山岳信仰（『山岳宗教史研究叢書』一、近畿霊山と修験道、名著出版、一九七八年）／金の御嶽（同四、吉野・熊野信仰の研究、同、一九七六年）／熊野三山の歴史と信仰（同）／総説 吉野・熊野修験道の成立と展開（同）／総説

II 高野山の山岳信仰

高野山の山岳信仰（『山岳宗教史研究叢書』二、高野山と真言密教の研究、名著出版、一九七六年）／比叡山と修験道（『天台』六、民衆と天台密教、中山書房、一九八二年）

II 諸国霊山九峰の修験道と信仰

第九巻 庶民信仰と日本文化

解説Ⅱ 小松和彦

ISBN978-4-8318-3415-7 / 八、九二五円

I 庶民信仰の論理

庶民信仰における戒罪の論理（『思想』六二—四、岩波書店、一九七六年）／紀州花園村大般若経の書写と流（『大谷大学』五、大谷大学史学会、一九五六年）／民俗信仰としての大般若経（『印度学仏教学研究』三二—一、日本印度学仏教学会、一九五四年）／かくし念仏と通過儀礼（『真宗研究』一—一、真宗連合学会、一九六六年）／中世の庶民生活と一教（『日本の歴史』別巻、日本史の発見、読売新聞社、一九六三年）／日本仏教と民間信仰（『大法輪』四二—二、大法蔵閣、一九七四年）、ほか

II 元興寺極楽坊と中世庶民信仰

元興寺極楽坊中世庶民信仰について（『元興寺極楽坊中世庶民信仰資料の研究』法蔵館、一九六四年）／元興寺極楽坊の棟札・柱刻銘寄進文および板書供養願文（同）／聖徳太子立像胎内納入物（同）／印仏と千林地蔵（同）／木製五輪塔（同）／納骨器（同）、ほか

第十巻 木食遊行聖の宗教活動と系譜

解説Ⅱ 伊藤唯真

ISBN978-4-8318-3416-4 / 八、九二五円

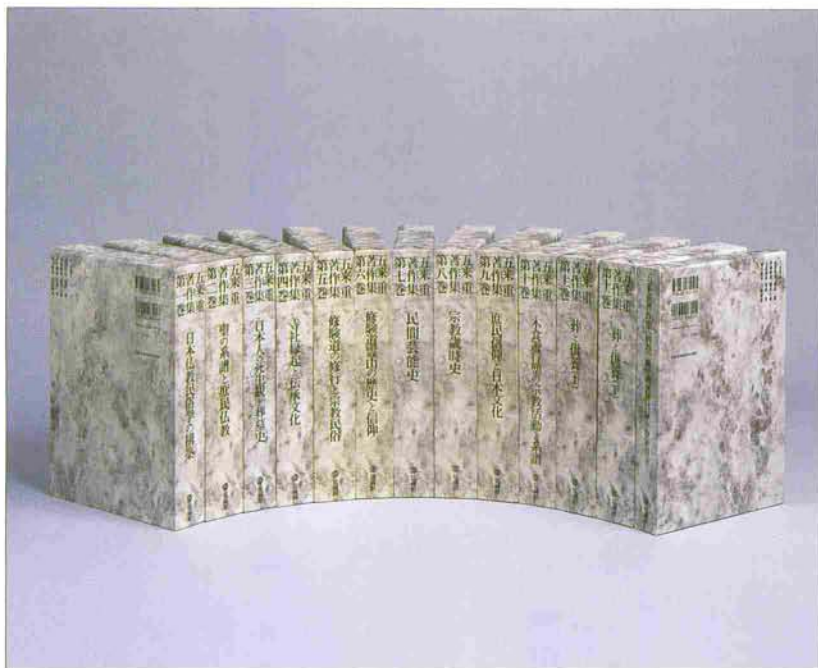
I 弾誓上人

塔の峰本『弾誓上人絵詞伝』による弾誓の伝記と宗教（箱根町誌編集委員会編 箱根町誌』三、角川書店、一九八四年）
円空上人

II 円空上人

円空佛—その境涯と作品（淡交社、一九六八年）／円空の遊行と美並村（『美並村史』通史編下、美並村、一九八四年）
円空の宗教系譜（『美並村史』史料編、美並村、一九八四年）／円空伝十二万体の秘密—円空伝とその周辺（『微笑の円空伝を訪ねる旅』、太陽社、一九七八年）／円空の謎を解く（『芸術新潮』二八六号、新潮社、一九七三年）、ほか

全巻完結



【編集委員】

赤田光男(帝塚山大学教授)、伊藤唯真(佛教大学名誉教授)、小松和彦(国際日本文化研究センター教授)、鈴木昭英(日本宗教学会代表)、福田 晃(立命館大学名誉教授)、藤井正雄(大正大学名誉教授)、宮家 準(慶應義塾大学名誉教授)、山路興造(民俗芸能学会代表理事)

【特色】

- 編集委員が厳選した論文・単行本を著者の研究テーマ別に再構成し、半世紀にわたる業績を集大成した。
- 各巻巻末には、仏教史・民俗学・国文学・芸能史研究等の第一線で活躍する編集委員が丁寧な解説を付し、論文成立の背景を探る。
- 各巻には、多彩な執筆陣による『月報』を挿入し、著者の学問研究の背景、人間性などに迫る。
- 第一巻には、初公刊の学位論文「日本仏教民俗学論攷」をはじめ、トーバ(塔婆)の変遷を明らかにした「仏教と民俗学」、「仏教儀礼の民俗性」とくに修正会と修二会について」などを収録し、五来仏教民俗学の構想が明らかになっている。
- 第二巻には、名著とされる『高野聖』と『善光寺まいり』の決定版を収録する。
- 別巻には、「略年譜」「著作目録」「全巻索引」を収録する。
- 分冊の販売を可能にし、読者の購入の便を図った。

【読者対象】

日本仏教史(古代・中世・近世)、日本民俗学、芸能史、仏教文学、葬墓史、美術史、歳時史、郷土史等々の研究者、および一般読者。

【体裁】

A5判/上製貼ケース入/各巻平均四三〇頁
(但し、第二巻は五六一頁、別巻は二一九頁)/付「月報」

【定価】

(価格は税込5%の表示です)
第一・三〜十二巻は、八、九二五円、第二巻は九、九七五円
別巻は七、一四〇円

(取扱書店印)

五来重 著作集 全12巻/別巻1 分売も可能です

第1巻〔 〕冊/第2巻〔 〕冊/第3巻〔 〕冊/第4巻〔 〕冊
第5巻〔 〕冊/第6巻〔 〕冊/第7巻〔 〕冊/第8巻〔 〕冊
第9巻〔 〕冊/第10巻〔 〕冊/第11巻〔 〕冊/第12巻〔 〕冊
別巻〔 〕冊 ■〔 〕セット申し込みます

ご住所 〒

お名前

お電話

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東一
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
Homepage <http://www.hozokan.co.jp>
e-mail info@hozokan.co.jp

申込書

1002263000